

令和6年度一般選抜（C日程）における小論文出題意図及び解答例

国際経済学部

1. 小論文問題作成の基本的な考え方について

国際経済学部では、アドミッション・ポリシーで大学入学までに身に付けておくことが望ましい知識・能力・態度として挙げた高等学校における学力の三要素、「知識・技能」「思考力、判断力、表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」に関して学力評価を行うこととしています。小論文試験は、このうち主に「思考力・判断力・表現力」として、経済社会のさまざまな動きや変化に対する探究心を有し、自らの考えを論理的に表現し、わかりやすく伝えることができることを評価することを目的としています。

2. 試験問題の内容および意図について

（内容）

本試験にて提示された問題文は、「まちづくりの統計学」（宇都宮浄人・多田実編著、2022年、学芸出版社）に収録されている「第9章 買い物弱者を支援する」（高橋愛典・大内秀二郎著）から抜粋・一部改変したものである。この文献では、流通機能や交通網の弱体化とともに、食料品等の日常の買い物が困難な状況に置かれている買い物弱者の問題に注目して、その実態把握、原因解明、支援方法などを論じている。

（意図）

問1は、小売業の事業所数及び平均売場面積の推移の図、世帯主の年齢層別の自動車保有率、路線バスの累積廃止距離数のグラフの特徴を把握し、本文との関係を簡潔に説明することを求めている。

問2は、変化率を理解しており、正しく計算することを求めている。

問3は、買い物弱者問題に対する交通からのアプローチの対策例として挙げられている買い物バスについて、実施されたときのメリット、実施上の問題点を指摘し行政組織がとりうる政策上の対応についても考えながら自分なりに評価し、それらを論理的に分かりやすく表現することを求めている。経済社会への関心や探求心を有しているか、思考力、判断力、表現力を有しているか、総合的に評価する。

(参考)

解答例

問 1

小売業の事業所数はピーク時の 1982 年には 172 万点あったが 2016 年には 99 万点まで減少し、一方、平均売場面積はほぼ一貫して拡大している。また、2009-2016 年の間に 8 千キロ以上のバス路線が廃止された。これらは自家用車の普及を背景に、自家用車でアクセスを前提とした大型店舗が郊外に出店したことで身近な個人商店が衰退し、公共交通の交通網が縮小した状況を反映していると考えられる。この状況下では、自家用車や運転免許を保有していない人は買い物弱者になる可能性が高くなる。自動車保有率は 70 歳以上で大きく減少しており、運転を断念する割合が多い高齢者は、特に買い物弱者になりやすいため。

(292 字)

問 2

$$((2,891 + 5,355) - (3,017 + 3,767)) \div (3,017 + 3,767) \times 100 = 21.55$$

よって、答えは、21.6% となる。

問 3 例えば、以下の解答例の下線部のような指摘が採点時の加点要素となる。

交通からのアプローチの対策例である買い物バスが運行されれば、移動手段を失った高齢者でも買い物に行くことができ、これは小売店側にとっても売上増加というメリットが期待できる。しかし、他に移動手段がないということは、路線バスなどの民間事業者は採算が取れず撤退した地域かもしれない。買い物バス運行の費用を利用者に全て負担してもらおうとすると、利用料金が高くなり結局利用されない可能性もある。したがって、買い物バスの運行にかかる費用を行政機関が補助することを検討しなければいけないだろう。それでも、全ての利用者のニーズに合った運行頻度・運行ルートを提供することが難しく、特に過疎地ではその困難度が増すと予想される。事前に潜在的な利用者に対する調査などを行い、どのように運行するのが効率的か注意深く検討すべきと考えられる。(355 字)